

北中かわら版

「北中かわら版」は地域医療連携のための広報誌です

「小矢部市民健康フォーラム」開催

北陸中央病院理念

「人間愛に基づいた医療を通じて
社会に貢献します。」

基本方針

1. 安全には細心の注意を払い、安心の医療に努めます。
2. 心のふれ合いを大切に、人権を尊重します。
3. 情熱と生き甲斐をもち、常に前進を図ります。
4. 小矢部市の中核病院として急性期と地域医療の共存を果たします。
5. 公立学校共済組合員や地域の人々の健康管理事業に力を注ぎます。
6. 健全な経営に努めます。

• 発行は、2, 3, 5, 6, 8, 9, 11, 12月です。「あいの風ほぐりく」が発行される月はお休みをいただきます。

• 次回は平成31年5月発行を予定しています。

平成31年3月9日（土）、クロスランドおやべセレナホールにおいて北陸中央病院主催の小矢部市民健康フォーラムが開催されました。

今回で7回目となり、市民の皆さんに対して健康を啓発する催しとして、定着してきた感があります。また、小矢部市、小矢部市医師会、厚生センター小矢部支所、全砺波薬剤師会からもご後援、製薬会社等から協賛をいただいております。

今年度は、砺波厚生センター小矢部支所長の引網純一先生に「小矢部市におけるがん検診の現状」についてご報告いただいた後、「小矢部市からがん死亡を減らすために～早期発見から手術治療・新規薬物療法まで～」をテーマに当院のドクター3名が講演しました。



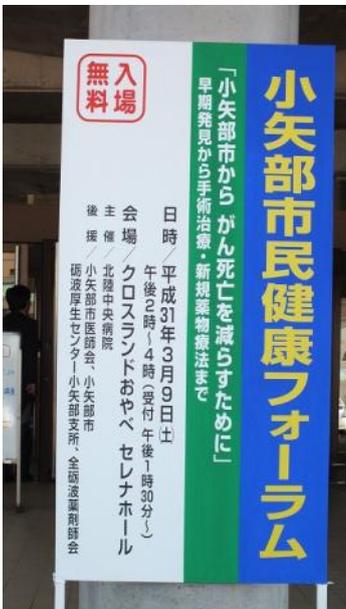
開会の挨拶：病院長 清水 淳三



祝辞：小矢部市長 桜井 森夫 様



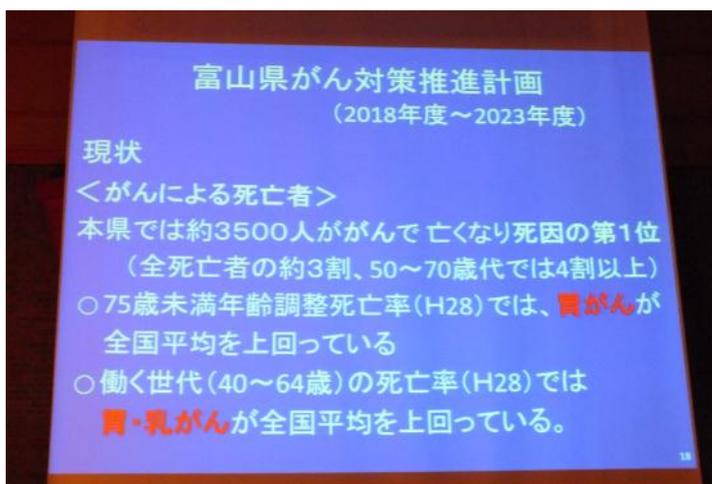
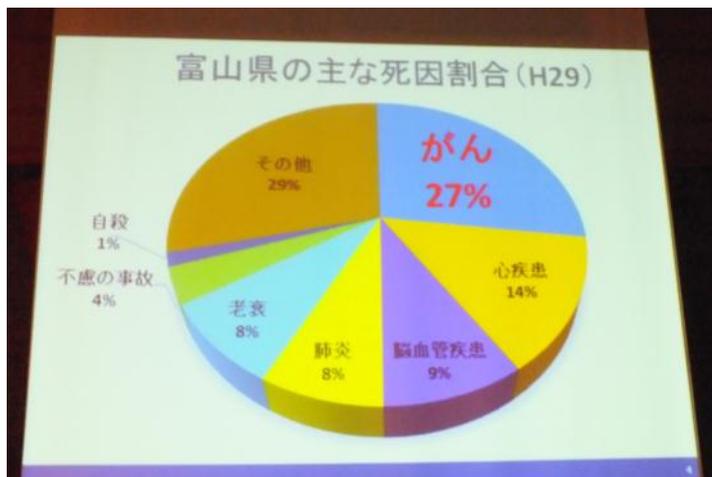
会場の様子：約360人の参加がありました



「小矢部市におけるがん検診の現状」



砺波厚生センター小矢部支所長 引網 純一 先生



富山県では年間約3,500人(H29)のがんで亡くなり、死因の第1位となっています。2位は心疾患、3位は脳血管障害、4位は肺炎、5位は老衰の順になっています。

総死亡数に占めるがんの割合は約3割であり、年齢別に見ると、50～70歳代では、4割以上となっています。

富山県のがんの部位別75歳未満年齢調整死亡率(2016(平成28)年)では、女性の胃がんが全国値を上回っています。また、男女計においても、胃がんが全国値を上回っています。

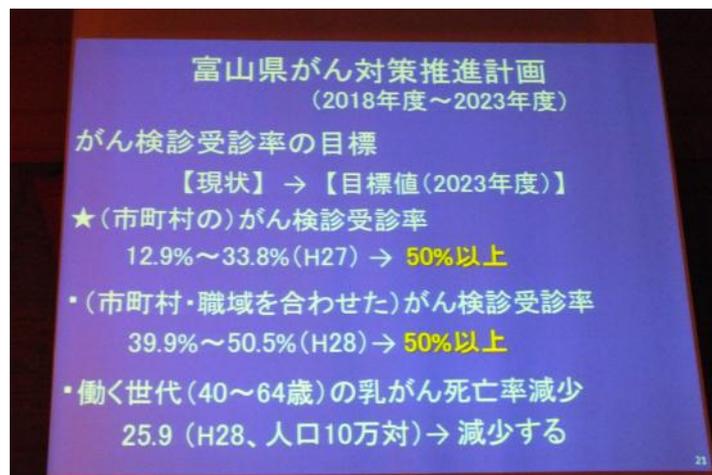
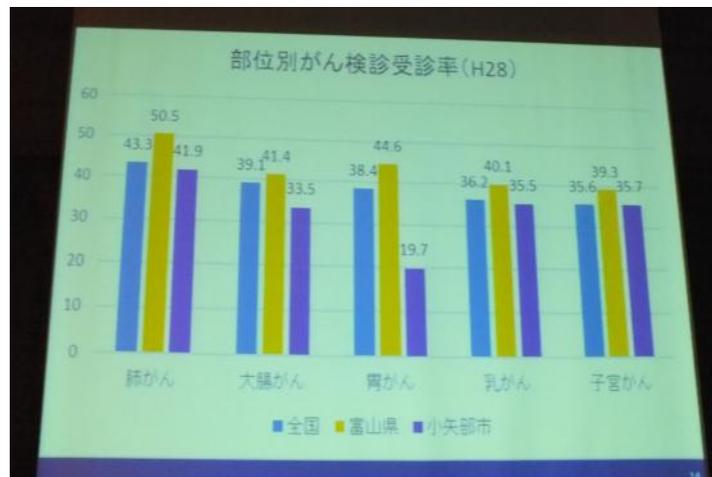
富山県の働く世代(40～64歳)のがん死亡率(2016(平成28)年)では、胃がんが男女ともに全国値を上回っています。

また、男性では、大腸がんが全国値を上回っており(男女計では、全国値を下回る)、女性では、乳がんが全国値を上回っています。

部位別がん検診受診率(H28)では、「肺がん」「大腸がん」「胃がん」「乳がん」「子宮がん」各検診受診率全てにおいて富山県全体では全国平均を上回っていますが、小矢部市では全国平均を下回っており特に胃がん検診の受診率が低く2割の人しか受けていません。

富山県がん対策推進計画(2018年度～2023年度)では「がん検診受診率50%」を目標に取り組んでいます。

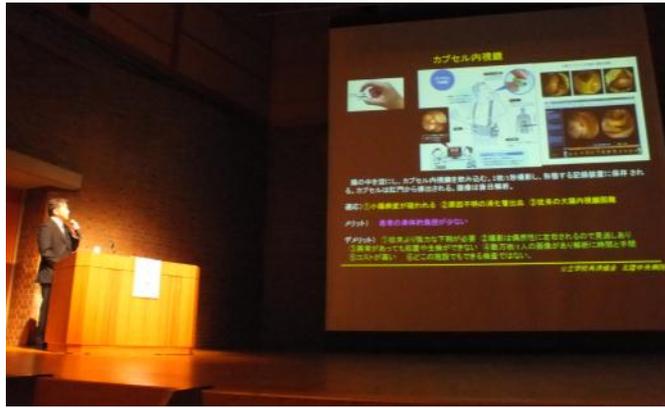
がんの早期発見・早期治療のためには定期的ながん検診の受診が大切です。また、がん検診で「精密検査が必要」と判断された場合には、必ず精密検査を受診しましょう。



1.胃がん・大腸がんの話 ～診断から治療まで～



副院長 亀水 忠

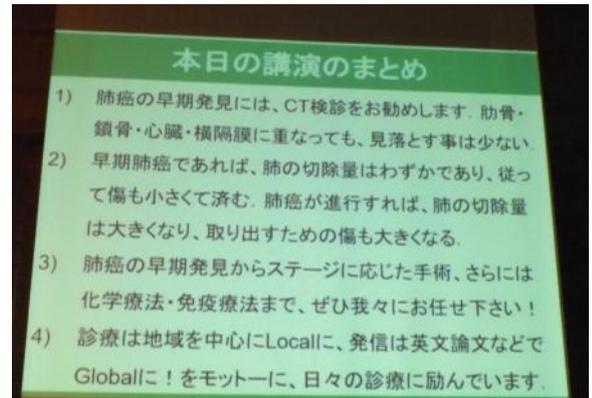


医務局長 武藤 寿生

2.肺がんの早期発見からステージに応じた手術まで



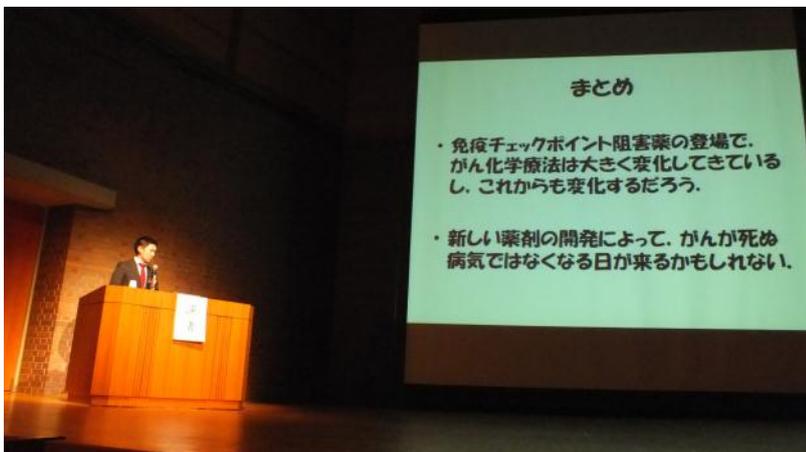
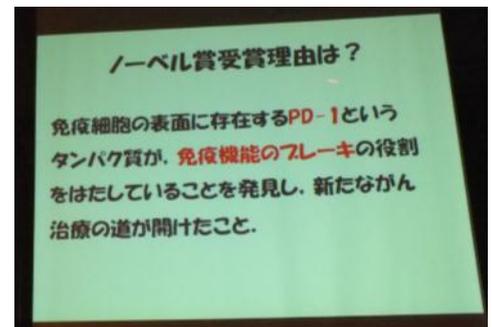
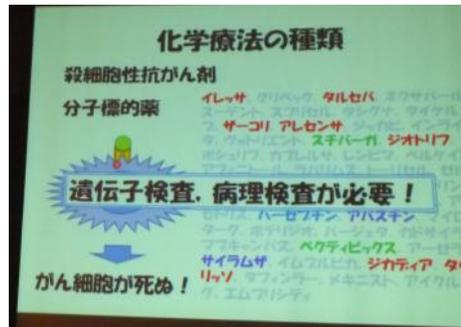
病院長 清水 淳三



3.がん薬物治療のいま ～一人ひとりにあった個別化治療の時代～



外科医長 守屋 真紀雄



閉会の挨拶：小矢部市医師会 会長 井上 徹 先生

閉会のご挨拶として「たくさんの質問もありとてもいい会でした」とお褒めのことをいただき終了となりました。

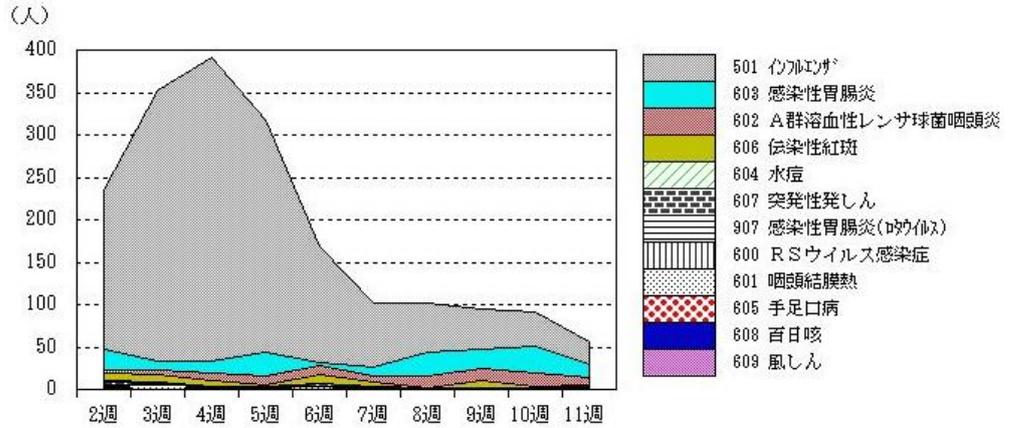
詳しい講演内容は4月発行の「あいの風ほくりく」に掲載予定です。

感染症発生動向

平成31年 第11週 3月11日(月)~3月17日(日)

《 砺波厚生センターの疾病別報告数の割合 》

疾病別報告数の割合



県内のインフルエンザの流行は縮小傾向にあり、終息に向かっていると思われますが、小矢部市東部小学校で3月19・20日に5年生が学年閉鎖になりました。

「腎臓病予防教室」開催 3月14日(木)



腎臓内科 武藤 寿生

